



出張報告書

令和8年7月21日

尼崎市議会議長 様

団体名: 尼崎市議会 無所属議員の会

代表者氏名 池田 リナ

出張者氏名 池田 リナ

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和8年7月13日から令和8年7月13日まで

2 結果の概要

用務先 渋谷区	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 午前: 渋谷区 探究シブヤ未来科について 午後: 渋谷区立西原小学校の授業見学
添付書類 ☒ 出張報告書 ☐ ☐ ☐	備考

3 届出事項の変更等 ☒ なし ☐ あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

☒ 精算額は、令和8年6月10日届け出た額 (28,680 円) と同一額である。

☐ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

月	日	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

視察報告書

尼崎市議会 無所属議員の会

シセ田 リナ

日時:2026 年 7 月 13 日(月)10 時 30 分~15 時 30 分

視察先:東京都渋谷区役所・渋谷区立西原小学校

テーマ:渋谷区「探究シブヤ未来科」について

渋谷区では、令和 6 年度から文部科学省の特別な制度(授業時数特例校制度)を使い、区立のすべての小・中学校で新しい授業時間「探究シブヤ未来科」をスタートさせています。(資料 1)

これは、従来の「先生から知識を教わるだけの授業」から、「子どもたちが自分で問いを見つけ、調べ、考え、行動しながら、正解のない問題に挑む学び(探究学習)」へと大きく切り替える取り組みです。

今回の視察で特筆すべきことを 5 点述べます。

① 一部の学校だけでなく「全校」で取り組む仕組み

特定のモデル校だけで終わらせるのではなく、区内すべての小・中学校で一斉に導入しています。行政がしっかりと引っ張ることで、地域全体の教育の質をまとめて引き上げていました。

② 小1から中3まで、成長に合わせた9年間の計画

小学校1年生から中学校3年生まで、「気づく」「調べる」「考える」「みんなで協力する」「発表する」といった力を、子どもの成長に合わせて段階的に育てる仕組みが作られており、9年間途切れることなく学びが積み重なっていきます。

③ 教科の枠を超える「STEAM教育」とのセットでの進め方

探究学習の中に、「STEAM教育」という新しい考え方を取り入れています。これは、

- ・ Science（理科・科学）
- ・ Technology（パソコン・技術）
- ・ Engineering（ものづくり・工学）
- ・ Arts（自由な発想やデザイン・芸術）
- ・ Mathematics（数字やデータ・数学）

という5つの頭文字を合わせています。国語や算数といった教科の枠を超えて、それらを交ぜ合わせて学び、そこで得た知識を「世の中のリアルな困りごとの解決」に役立てる創造的な教育です。学校での勉強をテストのためだけで終わらせず、社会に活かす目的で実践されています。

④ パソコンや AI を「頭の整理・分析」に使う工夫

タブレット端末や AI を、単なるネット検索や「答えを出すための道具」として使うではありません。自分の考えを整理したり、分析したり、振り返ったりするための「頭を働かせる補助ツール」として効果的に使っていました。

⑤ 「探究コーディネーター」による、先生の負担を減らす体制

学校と、地域の企業や大学などをつなぐ専門の職員(探究コーディネーター)を配置しています。街全体を学びの場にしながらも、授業づくりの負担が学校の先生だけに集中しない、無理なく続けていける仕組みを整えていました。

最後に本視察の成果を踏まえ、本市に活かしたい点を 2 点述べます。1 点目は、小中学校から高校まで系統的につなぐ「尼崎版探究プログラム」の構築です。

本市でも、生徒が自ら課題を見つけ、考え、行動する実践的な学びは既に行われています。例えば、市立大庄北中学校では、生徒会が中心となって「給食の残食」をテーマに原因や改善策を考え、全校生徒へ発表する取り組みが行われました(資料 2)

このような先進的な実践を単一の学校だけで終わらせるのではなく、「探究」という共通の理念のもとで、小学校から高校まで一貫して学びを積み重ねられる仕組みへと発展させていく必要があります。

2点目は、豊富な地域資源を活かした日常的な「尼崎版探究学習」の推進です。本市には、ものづくり企業や大学、商店街、福祉施設など、多様で魅力的な地域資源が存在します。また、市内企業等と連携した「あまがさき探究プログラム(あま探)」も始まっています(資料 3)

現在は主に市外からの教育旅行向けの取り組みですが、仕組みを本市の子どもたちの日常の学びにも広げ、地域・企業・大学と連携した「尼崎版探究学習」を推進したいです。子どもたちが地域の課題を自ら発見し、多様な人々と協働しながら解決策を考え、実践する経験を積み重ねることは、主体性や課題解決能力、さらには地域への愛着(シビックプライド)を育む教育につながります。視察で学んだことを尼崎市の教育に活かしてまいります。

探究を進めるにあたって

誰もが経験した、目を留ませ、心をとまめかせながら遊びに没頭していた幼児期。

そのワクワク感、小學校、中學校の半びの運動力につながっています。

すべての子どもたちには、自ら学ぶ力が備わっていて、環境さえ整えれば、

その力を發揮することができます。

一人のソレの子どもたちを價額し、年廿て、待つて、支えていくことが、大人の役割です。

これから本格的に始まる探究「シブヤ未来科」でいろいろな体験や、

名樹が太人との出会いの機会が、子どもたちの心に火を灯し、

子どもたちの望みが駆動していくことでしょう。

そのためには、日々の教科の学習で身につけた知識・技能を基礎にしつつ、

子ゾもたちの小に火を打す煙草をどのようにに聚えていくが工夫し、目の前の子どもたちの姿と、

一人一人の子どもの園時の行事をしっかりと目なげら、飽えず検討し続けていくことが必要です。

まじけ 生生方も 野成遷念にふられずに 子ゾもかちと……話になつて楽しく學んでください。

生方は、遊藝の十指ゲームであり、コーディネーター、フュージョニーター、

そして一人ひとりの子どもたちのメンターでもあります。

きつと、平棚をト回る子どもたちの勢がなな発想に驚いたり、

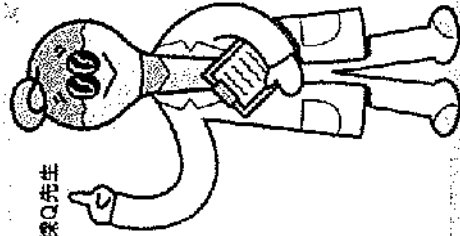
筆者はゆくゆくは私たちの成長する姿に感動したりすることも多くあるでしょう。

本ハンドブックが、学びの殿堂に携む先生たちの後押しになることを願っています。

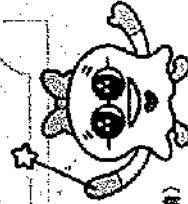
介紹二牛牌鋼筆



ミライチねん



科学出版社



フェアリー
(探Qの妖精)



八五〇五

「ミブヤ未来科」の流れ

学校の1日の流れ

1校時	教科の学び	一人一人が探究できる授業展開を行う。	各教科における探究的学習
2校時	国語・社会・算数(数学)・理科・生活		
3校時	音楽・図工(美術)・技術・家庭科(技・家)		
4校時	体育(保・体)・外国語		
5校時	教科を横断する探究的な学び		
6校時	一探究「シブヤ未来科」 総合的な学習の時間、各教科、道徳、特別活動		

学校の1年間の流れ (例)

小学校 6年 前期 4~7月 155単位時間 (総合155時間) 9月~10月 10月~12月 1月~3月	60時間 ● 探究基礎・体験 (外部人材) 共通テーマによる探究 (複数サイクル可) 共通テーマからの発展も可能
中学校 2年 前期 4~7月 142単位時間 (総合142時間) 9月~10月 10月~12月 1月~3月	37時間 ● 探究基礎・体験 (外部人材) 共通テーマによる探究 (複数サイクル可) 共通テーマからの発展も可能

※4月からは、選考に取り組むなど各学校の実態に応じて柔軟に構成してください。

教育部臺灣地區特設學校制度生活應用

探究「シブヤ未来科」とは？

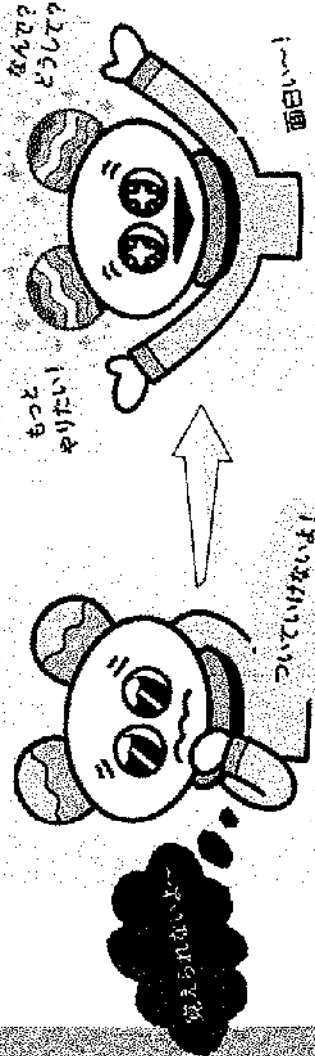
先生が教える授業から、
子どもが学びを創る授業へ。
探究的な学びを通して、
未来に活きる本物の学力を！

キーワードは
感動！発見！疑問？



新たな学びを充実させるのが、探究「シブヤ未来科」の時間です。
これまでも、他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を振り返ったり、方法や手順を的確に記述したり、伝え合ったりする探究活動を行ってきました。探究「シブヤ未来科」では、子どもたちがまわりの全体を教室にしてグローバルな視野をもち、より主体的な探究活動を進めます。教科の学習で培った見方・考え方やスキルを活かし、子どもが自ら問いを立てて探究することで、未来に活きる本物の学力を身に付けます。

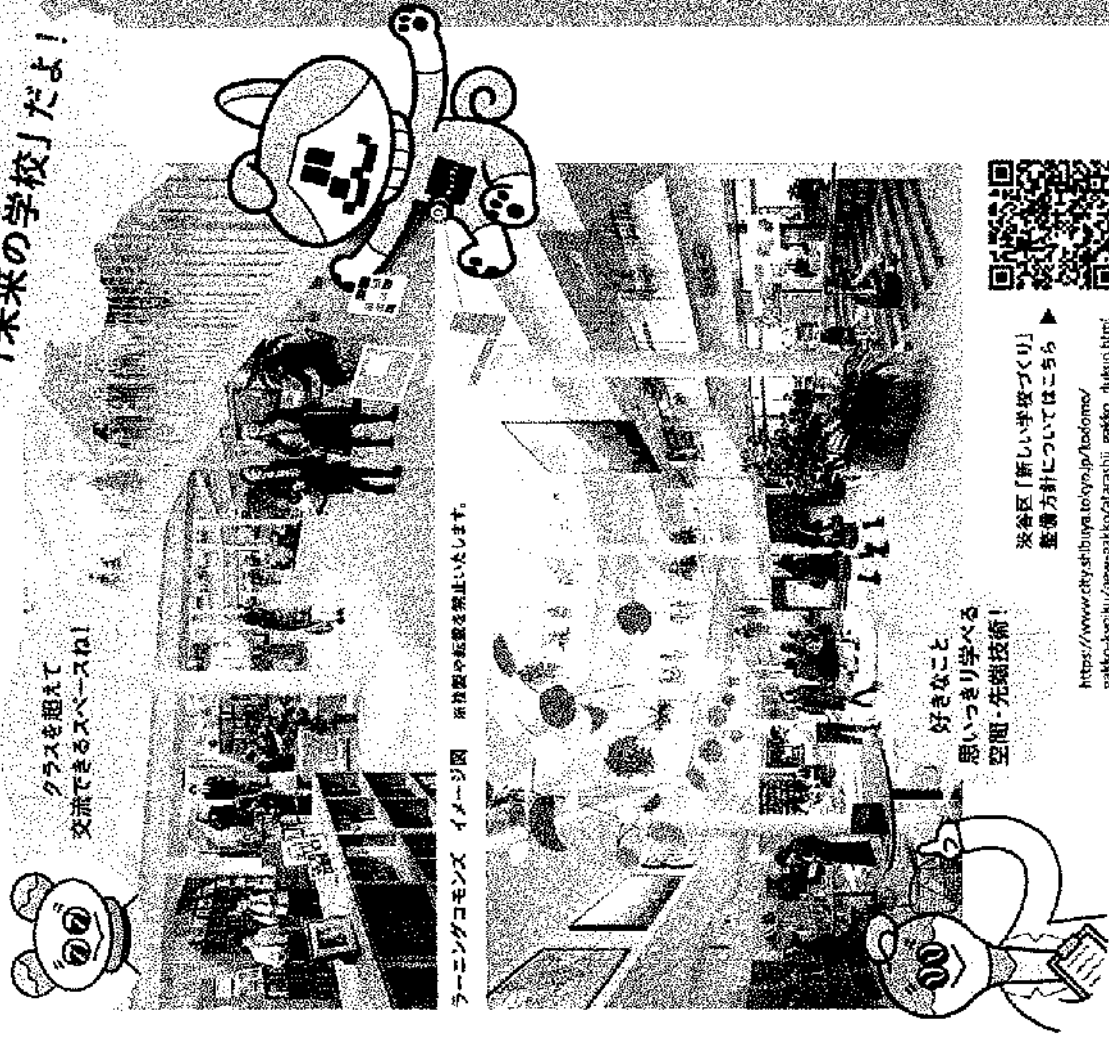
そろえる教育から一人ひとりを伸ばす教育へ



未来の学校を見てみよう！

探究空間「渋谷」

渋谷の
「未来の学校」だよ！



渋谷区「新しい学校づくり」
整備方針についてはこちら

https://www.city.shibuya.tokyo.jp/todome/gakko-kyoiku/new-gakko/atarashi-gakko_dukun.html

シブヤの特徴を活かした探究

探究空間シブヤ!

可能性は無限大!

My探究の舞台は、渋谷のまち

ダイバーシティとインクルージョンという考えを大切にしている渋谷区。多様な人々が暮らし働き、最先端の技術やカルチャーなど、さまざまな「渋谷発」が日々生まれる、日本を代表する国際都市です。一方で、地域とのつながりも強く、伝統的な祭りやイベントなど交流の場もたくさん。そんな多様な魅力に溢れるこのまちには、まわりを見渡すだけでも、知りたいこと、学びたいことの原動力になるようなワクワクの種がいっぱい! 渋谷区は、まち全体が探究の場です。

About
渋谷

最先端の体験 企業連携

渋谷区には時代の最先端を担う企業がたくさん集まっています。企業と連携することで、子どもたちのMy探究の可能性を広げ

地域連携

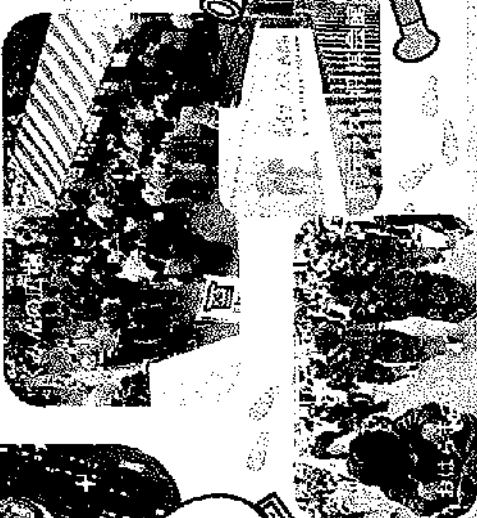
地域とのつながりを大切にした「防災キャラバン」や「くみんの広場」、「おとなりサンデー」では出店やワークショップがあり、豊か自然に出るだけで、豊か自然に近づくことができます!

自然に恵まれた 豊かな環境

実は緑被率が23区内でもトップクラスの渋谷区。教室から一歩出るだけで、豊か自然に出るだけで、豊か自然に近づくことができます!

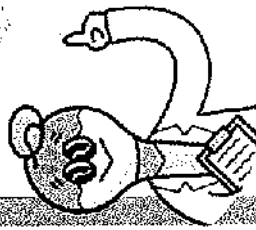
多様な スポーツ・文化・アート

区全体を「5つの運動場」とし、スポーツが暮らしに溶け込むよう、さまざまな施設を整え、国際的な舞台となる施設もたくさん。他では体験できない貴重な学びが可能です。



もう始まっているよ! ワクワク探究!

小学校事例

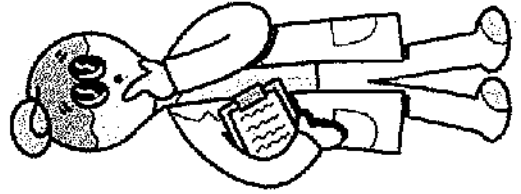


小学校でワクワク探究をするには?
ヒントは3つのキーワードだよ!



- ① 教科を横断して学びを深めよう
- ② 地域の人と出会って、体験しよう
- ③ 地元の企業とコラボして世界を広げよう

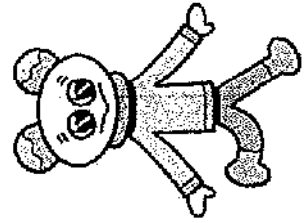
わー!
先生たちも楽しそう!!



小学校の強みは、
全教科に詳しい担任の先生が
教科横断的に
進められることね!

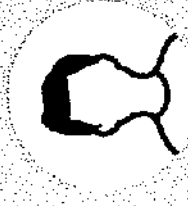


さまざまな教科をつなげれば、
探究はもっと深まるね!



6年生

「アート&キャリア」をテーマに、自分たちの住む地域の未来をデザインする探究。地域に暮らす人や働く人々へのインタビューも行い、自ら課題を立てて解決策を考えるなかで、オリジナルのグッズを作するなど新しいアイデアもどんどん誕生!

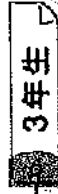


6年学年主任

3年生

SDGsがテーマの探究では、タブレットが大活躍! 情報収集、整理、分析にフル活用。

3年学年主任



地域や外部と協働することは学びの幅を広げるのももちろん、転勤のある教師よりもっと身近に詳しいのも利点のひとつ。学校の外にも相談できる人をつくるととても心強いです。



4年生

地域と連携した防災の探究では、自分たちが講師にも挑戦した防災教室を開催。

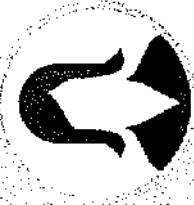
4年学年主任



5年生

食育の探究では、地元の企業や飲食店と一緒にお店づくりに挑戦。

5年学年主任



取材協力: 加計塚小学校

※ 個人名・顔写真等はプライバシー保護のため公開していません。

もう始まっているよ! ワクワク探究!

中学校事例

中学校でワクワク探究をするには?
ヒントは3つのキーワードだよ!



- 1 教科の延長上にある課題を発見し、社会、地域に貢献することを目指す
- 2 デジタルツールや探究スキルを駆使する
- 3 企業とコラボして最先端の体験をする



どのように探究を進めたのか、探究プロセスを見てみよう! //

テーマ MIXIブロックアイランドを使って「まちづくり」を考えよう!

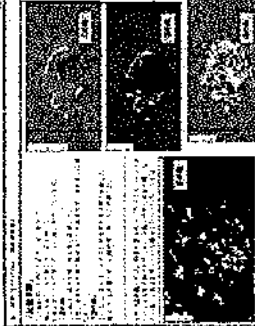
- 1 課題の設定
- 2 情報の収集
- 3 整理・分析
- 4 まとめ・表現

課題設定
SDGsを基めながら、世界で起きている問題点を洗い出す。何が問題か? 原因は? どうしたら良くなるか?

情報収集
課題を立て、解決方法を考える。SDGsは理科、経済発展は社会科、統計は数学科との連携も。

整理・分析
実際にソフト上でまちづくりをしながら、データを分析・検証する。

まとめ・表現
MIXIプログラムのフォーマットに沿って学習をまとめ、発表。



生徒のワクワクを引き出すツール選びがポイント。企業とコラボして探究学習に特化したプログラムを導入したり、生徒だけでなく教師自身も「面白そう!」と考えるような人気ゲームなどを教材に採用しました。



テーマ マインクラフトを使って「渋谷Cityをつくるう!」

- 1 課題の設定
- 2 情報の収集
- 3 整理・分析
- 4 まとめ・表現

課題設定
自分達にとっての渋谷Cityとは? 渋谷らしさを表現するには? どの様にしてマインクラフトで協働して表現できるか?

情報収集
インターネットなどを活用し、渋谷の写真を参考にアイデアを膨らませる。

整理・分析
Teamsのclass Notebookを使い、渋谷区をPRする企画案を制作。その後、4人ずつの班に分かれ、「マインクラフト」を使い渋谷Cityを制作。

まとめ・表現
ウォークスルー形式で発表会。

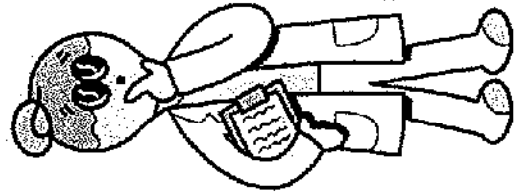
ゲームソフトの使い方は、生徒同士で教え合い学んでもらったよ!



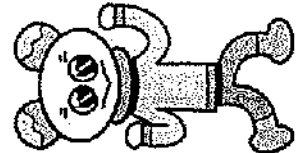
中学校の進みは、自分の専門教科のワクワクを知っている先生が伴走できることね!



先生たち自身の興味やワクワク感が、子どもたちのワクワク探究につながるんだ!



デザイン、モノづくりだけでなく、実際に売るところまでやっとなんで!



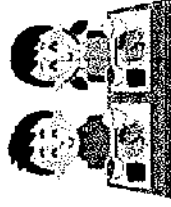
取材協力: 渋谷区立学園中学校 ※ 匿名名・顔写真はプライバシー保護のため公開しておりません。



尼崎市立大庄北中学校
学校だより
校訓『自律、協調、自愛』
校長 西村 純一

◎「めざせ！食品ロス・ゼロ川柳コンテスト」へ約150作品以上の応募がありました。(下に一部を紹介します)

- ・美味しいね 言葉のスパイス 魔法のよう
- ・満腹で ごちそうさまと 笑顔たち
- ・その一口 農家の努力が つまってる
- ・蓋開けて 湯気と笑顔が 溢れ出る
- ・やめようよ 食わず嫌いや 好き嫌い
- ・いただきます 命に感謝 忘れない



「給食残量削減プロジェクト」

尼崎市内の中学校で給食がはじまり4年が経ちますが、開始当初より残食量の多さが問題視されています。その問題に対して、生徒会長が尼崎市が設置する意見箱(まちづくり提案箱)に「給食の残食削減」に関する意見を送りました。すると、教育委員会から教育長をはじめ学校給食課の職員の方が直接、生徒に意見を聞きに来校されました。

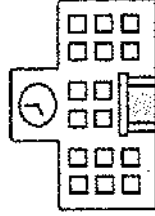
生徒会の代表から「手を付けていない残食をどこかの事業所へ託せないのか」や「残飯を肥料に活用できないのか」と言った具体的な質問がありました。また、食品衛生法などの食の安全管理する厳しい法律があり難しいとの回答を受けました。しかし、尼崎市として残食の削減に向けて何ができるのか、また学校ができることは何かを前向きに考える深い話し合いとなりました。

その結果、学校として生徒会が中心となり「給食残量削減プロジェクト」の取組が行われました。全校集会で会長がプレゼンを行い残食の削減を呼びかけました。さらに、「めざせ！食品ロス・ゼロ」川柳コンテストへの応募などいろいろな観点からアプローチをすすめました。

すると市の給食残量調査で、残食量の少ない学校順位がプロジェクト開始時点より2つアップして5位になりました。これは多くの生徒が残食を意識することができた結果です。一人ひとりが一口を大切にすることで学校全体では大きな削減量になることを感じました。この素晴らしい取組が大庄北中学校だけではなく、市内の小中学校や全国に広がっていくことを心より願っています。

保護者のみなさまへ

- 昨年度より教職員の「働き方改革」の一環として、教職員からの挨拶ハガキ(暑中見舞い・年賀状)は原則送付しないこととしております。また、職員室の電話対応時間は、通常8:00~18:45(長期休業中を除く)ですが、テスト期間中など校内に生徒が残っていない場合は17:00までとしています。ご協力とご了承をよろしくお願いします。
- 令和7年1月22日(水)の5校時に参観授業、6校時に新入生の保護者を対象とした入学説明会があります。



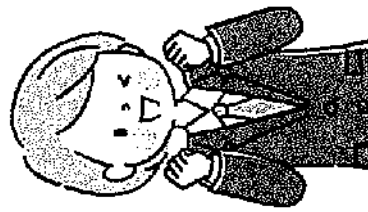
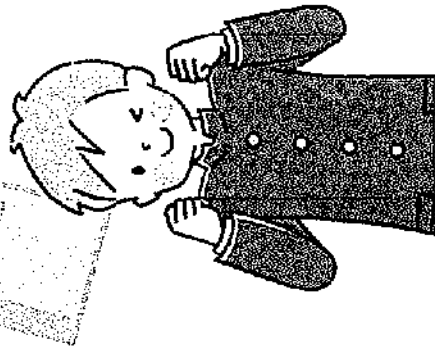
尼崎市立大庄北中学校HP
学校からのお知らせ
月間行事予定表
学校だより&保健だより



— Why? から始める『探究型教育プログラム』 —

「あまがさき探究プログラム」

自ら問いを立て、社会や地域との関わりを通して、
自分なりの答えを導き出す“探究型教育プログラム”



キャリア 探究

各企業の体験型プログラムや社会課題の解決策を考えるグループワークなどを通じて、自分なりの職業観を形成していく。

地域 探究

特定の地域の成り立ちや課題について学ぶことで得られる知識や気づきを、自分が住む地域の課題解決に生かし、将来に向けた行動へとつなげていく。

SDGs 探究

環境問題をはじめとした社会課題の解決に向け、各企業が事業を通じて実際に取り組んでいる内容を学び、SDGsを自分事として捉えられるようになる。



プログラムについて

探究プログラムの特徴

①「旅マエ〜旅ナカ〜旅アト」でより深まる探究学習

事前学習



現地学習



事後学習

自ら問いを立てる

- 課題研究
- 事前調査

生徒一人一人が何を学びたいかを考え、テーマを設定。事前調査を通じて、自ら「問い」を立てる。

体験・情報収集

- 現地学習
- 講話・ワークショップ

旅行中は、自らが立てた「問い」に対して、体験や見学、交流を通じて気づきや答えに対するヒントを得る。

掘り下げる

- リフレクション／振り返り
- 自分ごと／ビジネスアイデア

旅行を振り返り、どのような気づきや学びがあったかを整理し、自らが立てた「問い」に対して答えを導いていく。

グループワークや発表を通じてインプットだけでなくアウトプットを行う→実践的な学びへ

②「キャリア探究」「地域探究」「SDGs探究」それぞれの観点から学ぶことができる

キャリア探究の観点

企業担当者より、企業の取り組みや、抱える課題をヒアリングし、解決に向けたアイデアや答えを導き出し、社会に出た際の考える力を身につける。

地域探究の観点

特定の地域の成り立ちや課題について学ぶことで得られる知識や気づきを、自分が住む地域の課題解決に生かし、将来に向けた行動へとつなげていく。

SDGs探究の観点

各企業が実際に行っている社会課題や環境問題を解決するSDGsの取り組みを学び、自分事として視野を広め、自分の生活に置き換えて実践する「答え」を出す。

